

KOKUYO

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

6号

新聞の歴史としくみ

敬亭全集第二十四回入選作品

志村道子

75



INDEX

PAGE	DESCRIPTION
	動き
(1) 新聞の歴史	P1 P2 ~ P9
(2) 記事の書き方	P10 ~ P18
(3) 新聞の見出し	P19 ~ P22
(4) わりつけ	P23 ~ P27
(5) 新聞社のしくみ	P28 ~ P39
(6) 新聞記事の分類 りあて 種類	P40 ~ P44
(7) 発行部数	P45 ~ P46
(8) 新聞のよみ方	P47
(9) まとめ	P48 ~ P51
(10) 感想	P52

動き

私は、6年生になって、新聞部にはいりました。それは、毎日新聞を読んでいて、こんな新聞をつくろうと思ったからです。はいってからは見出しつけ文章づくり、わりあての仕事をしました。いつも楽しく仕事をしているけれど、ほんとうの新聞社ではどんなふうに新聞づくりをやっているのか、ぎ問におもうようになりました。また、文章などを書く時、いい言葉がみつからなかったことが何回もあり、こまることや、見出しが文章とあわなくて首をひねったこともありました。そこで私は新聞の出来るまで、しくみ、新聞のおいたちについて研究することになりました。

(1) 新聞の歴史1. 世界の新聞の歴史

キリシヤ時代は文字などをほとんど使わず、重大なことは記憶官にまかせておきました。

ローマ時代、ユリウス・ケサル皇帝の時ニュースを手紙に書いて売る商売の人が出てきました。その通信が「アクタ・ディウルナ」とよばれます。

また、ローマの英ゆうシーザーは、同じころ、国民の知りたい会議の内容を、石版で刷って立てかたにしました。元報員の公報を「アクタ・セナトウス」下院公報を「アクタ・ポプリ」といいます。

中国では、唐の時代「邸報」という新聞がありました。これは、皇帝玄宗から地方の長官にくばられた新聞です。宋の時代には、朝報が5日ごとに発行されました。これも支配者たちだけの新聞だが、世界最初の定

期刊行物といわれます。

また、世界で最初に活字を発明した、ヨハン・グーテンベルクという人がいます。グーテンベルクは1394年(99年ともいわれる)ドイツの金工の家に生まれました。かれが20歳のころ、フレデリック3世がマインにせめこんできたので、1家は追われてストランブルグにげました。そのころのヨハンは、カルタ遊びがすきで、研究心がかかんだ。たので、カルタから思いついて、木でつくった「活字」をつくることを考え出しました。前までの印刷は、1まいの大きな板に文章をそのままぼって版木にしていたため、印刷している間に、版木がすりぬけ、書きかえなければならませんでした。その点、アルファベットを活字に使うと、版を組むのも早くなり、使い終わったらバラバラにして何度も使うことができるようになりました。さらにかれは「金工」をとかして作る活字もしくまりました。

グーテンベルクが最初に印刷したのは、せい書でした。グーテンベルクは、こうして、生まれ故郷のミントを印刷の中心地になりました。

1536年「ガゼット」という、手書き新聞がヨーロッパのイタリア、ヴェネチアで出されました。ヴェネチアは、ぼうえきの中心地だったので、地中海えん岸や、ヨーロッパ各国の商業都市からニュースがたくさん集まりました。そのニュースを手で書いて売出したのが「ガゼット」です。イタリアだけでなく、ドイツ、オランダ、フランス、イギリスなどでも行なわれるようになり、このことから、ゆう便制度が発達し、遠くまで、まちがいなく届けられるようになりました。

17世紀にはアメリカで、週かんし、ざしが発行されるようになりました。

また、1771年6月11日、ペンシルバニア州のフィラデルフィア市ペン・チャーター学校で、週間の「ザ・ステュデント・ガゼット」

という学校新聞が始めて発行されるようになりました。

2. 日本の新聞の歴史

日本で一番古い新聞は「読売瓦版」です。一番古い瓦版は「大阪阿部野之合戦入図」です。これは、大阪夏の陣の戦いを絵に書いて、説明を書いて出したものです。瓦版というのは、ほとんど、やわらかいホウの木にぼった版を使いました。徳川時代にずいぶん発行され、記録や実物に残っているものを合わせると、1千種以上もあるそうです。記事は、あだうち、火事、地しん、美談などで、左手に新聞を持ち、右手に鈴を持ってならしながら売ったそうです。

読売瓦版の発行は、徳川幕府が許しませんでしたので、民間がこっそり発行していたものです。そのころは、日本のニュースは発表しないで、オランダ政府の新聞を日本語になおして発行していました。これを「官板バタ

「ピア新聞」といいますもちろん定期的に出したものではなく、読者も大名でした。これはさ国にあげられた海外のまどというものです。発行されたのは、1862年でした。

バタビア新聞の仕事をしていた、やな川春三、福地源一郎の2人は「中外新聞」「江湖新聞」を発行しました。

本木昌造は、日本で最初の活字をつくりました。

本木昌造は、長崎で、オランダとの通やくをしていました。オランダからくる印刷機と、欧米の活字を、友人と買いとり、こんどは、オランダの本の複製をつくる仕事をしました。

明治になってから昌造は、漢字の活字をつくろうと苦心に苦心をかさね、ついに明治3年3月、印刷所を開業しました。

これがわが国最初の印刷所です

わが国最初の日刊紙は「横浜毎日新聞」です。創刊号で創刊号で明治3年12月2日に発行された。タブロイド版2Pのもの

明治5年2月26日、東京で初めて、日刊紙が発行された。これは「東京日日新聞」となった。(あとの毎日新聞)半紙2まいをつないだ大きさ。

日本最初の新聞記者は、岸田吟香です。かれは、岡山県で生まれ漢学と英語を勉強し、1864年横浜で浜田彦ぞうらと、「海外新聞」を発行。また、1868年には「横浜新報 もしほ草」をそう刊しました。吟香が記者として、有名になったのは、1874年の台湾事件に、日本最初の従軍記者として参加し、台湾の風俗や人情の報道を東京日日新聞に送ったからです。世界の人は、この記事で、はじめて新聞の使命が重大であることを知りました。

明治政府府ができてしばらくたつと、政府の政治の進め方に反対し、民主政治を進めることをしようという運動が各地でおこなわれました。新聞の中でも、政府をせめるものがあったため、政府は、新聞を発行したり新聞記者を刑務所

に入れたりしました。このような政治についての記事や意見をのける新聞は「大新聞」とか「世論新聞」とよばれました。

大新聞のほかにも「小新聞」とよばれるものもありました。みんなに親しまれ口語体の文章で、ひらがなをたくさん使ったものでした。内容は、ぼうぼうのうわさ話、絵入りの小説、読み物などをまぜたもので、女の人にもよろこんで読まれました。1874年の「読売新聞」や「平仮名絵入り新聞」、「かなよみ新聞」などが代表的な小新聞です。19世紀～20世紀のはじめにかけて、日清日露戦争があり毎日の生活に新聞が大事になりました。新聞事業をする場合、読者を多くするため、かたくりしい政治問題については必要でなくなり、おもしろくはめる社会面の記事が多くなり、内容はニュースが多くなってきました。このような特色のある新聞は1892年に「朝報」つぎの年「26新報」大正のはじめにかけて、「朝日新聞」「毎日新聞」は、ニュースを中心に大きな紙をとりました。第一次世界大戦後「読売新聞」は婦人らんや文芸らんにかきを入れて編集し、大阪や東京に進出して新聞社と

競争しました。

やがて、満州事変・日中事変がおこり軍部により政治がおごられるようになり、用紙も少なくなり、記事も自由に書けなくなりました。

1951年に、平和条約がますばい新聞も自由になり、各新聞社ではげしい競争が行なわれるようになりました。

副詞

そう(然) かなり(可成) あまり(余) とても(甚)

連体詞

連体詞

この(此) あの(彼) どの(何) いわゆる(所謂)

接続詞

しかし(然、イ然而) ただし(但) ならびに(並)

および(及)

感動詞

ああ(嗚呼) いや(否)

助詞

くらい くらい(位) ほど(程) など(等) ばかり(許)

助動詞

ごとし(如) ようです(様)

補助動詞

である(有) しておく(居) していく(行)

形式名詞

こと(事) もの(者物) ため(為) さん、さま(様)

接尾詞

ら(等) たち(達) ども(共) さんさま(様)

⑤ 人名の書き方

(A)

(A) はじめに、完全な姓名を書き大中でくりかえす場合は姓だけ書く。ただし、同じ姓の人が、2人以上いる時は名を書くか名の1字を()して記入してもよい。

(B) 特になじみやすい名はふりがなにする。

(C) 姓

⑥ 時間の書き方

できるだけ正確な時間を書く。はっきりわからない時は「〇〇ごろ」とはっきりしないことをしよう命ずる。また、午後、午前、〇時の場合「正午」をもちいる。

⑦ 数学の書き方

(A) ふつう数字は、漢数字を使い、洋数字を使

わない。

(B) 入名の年れい トン数 票数などは

十二 五 二
五二 〇 〇
三 三 票 などとする。

⑧ 気張った文章はかかない
筆者が気おいたって、気張った文章を書いても
読者が読みにくくなるので高度な内容でも文

章はやさしく書く

2. 読者の関心を重視して書く

まず、新聞記事の内容は原因、状況、結果となる。
まずこの表現法は三角形の記述法(因果的記述法)といわれます。



この三角記述法のとおりでなくても読者が一番知りたいところから書く

3. リードまぐらの使い方

① リード

見出しのほかに本文の記事の内容を短かくまとめた大
本文がニュース性の強い記事の場合
できるだけ本文の内容の要点を具体的におりにむよ
うにする。

まぐら

出来事の特長となる点をぬき出して、かんたんにま
とめた大で、見出しと本文の間におかれることがある。

企画の強いものの場合

読者の興味をまずそそり、本文までよもうとさせる
ことが目的

4. 出来事の内容を正確に伝える

① あいまいな表現をさける

(A) 事実がわかるまできちんと調べる

② 内容の要素をおさえた記事を書く(5W1H)

報道ニースの場合、内容の要素とは

主体	— だれか・何か	Who
客体	— 何を	What
時間	— いつ	When
場所	— どこで	Where
理由	— なぜ・どうして	Why
状態	— どのように	How

これを「5W1H」の要素といいます。

文章を書いた時は、読みかえし「5W1H」が書いてあるか見る。

5. 大袈裟でつくりだした表現はさける。

新聞の文章は文字作品ではないから、感動を過度に強調するような主観的な表現は不必要です。本のカッコイイ言葉をつかうと、事実のようでなくなり、不自然になります。

6. 報道記事に、分別くさい意見はさける。

報道記事の中に、筆者の主観・感情・意見や、はんたんだん・分別などをやたらに持ちこむと、かえって内容

が、あいまいになり、ついつまのあやふやな人よかりの文章になる。(しかしどんな記事でもそういうふうにするのではなく、遠足や修学旅行の場合などは感想や意見を入れ、かかないとおもしろくなくなる。)

7. 論説の書き方

論説を書く時のテーマは、できるだけ身近で、できるだけ具体的な問題からえらぶ。

意見の書き方はお説教調にならないよう、あくまでも行平に書かなければならない。

8. 論説は新聞の姿勢、コラムは新聞の表情

気楽な気持ちで、友人と気軽に話すようなものがコラムです。

新聞記事は若さが必要なのは、おもしろくありません。生き生きした文章を書かなければなりません。ひねた

読まなければならぬ。

②感動をあたえるものであること。

見出しをつける時は、読者が感動する
ような見出しをつける。

③美しさとカを感じさせること。

(A) 漢字ばかりの見出しは、なるべくやめる。

(B) 同じ紙面では同一見出しは書かない。

(C) 名詞ではとめない。

(D) かざりケイヌ、ゴジック活字を使ってカ
強くみせる。

(E) 数字を使ってカ強くみせる。

3. 見出しのいろいろ

① 段見出しは、1段の1つ、おさめるもの。

1段見出しは、1段の中におさめるもの、大き
くなるにつれて、1段 2段 3段となる。

五段見出し (トップ記事)

① 秋空の下 自転車パレード

① 企業ペースの原発建設

② 中見出し、か 談会のような長い記事には、中見出しを
入れて読みやすくする。

② お宅の台所は大丈夫？

腐りやすい床や土台

無精すると思わぬ出費

③ 横見出し
紙面に変化を感じさせたり
見出しをたくさんつかいたい
時に使う

半年で五センチも

千葉原浦
安市南小仮校舎へ
移り勉強

沈む、沈む、学校が沈む...

- ④ 三本見出し
- ・ 才た見出し
 - ・ 木主見出し
 - ・ 才で見出し

- ⑤ その他
- 主見出し
 - 割りにみ見出し

(3) わりつけ

1. わりつけの大事さ

わりつけを失敗するとどんなによい原稿でも読者はよみにくくなり読んでもやろうと気持ちにならなくなったりするのでわりつけは大事である。

2. わりつけをする時の注意

新聞は右上の題字から1番左側のすみでおわるようになっているので右上から左下まで流れるように書かなければならない。また、トップ原こうや、3段見出しがついているものをあまりていねいにすると、ほかのものが読みにくくなりますから、どの記事もよみやすくしなければならぬ。

① 紙面のわりつけ

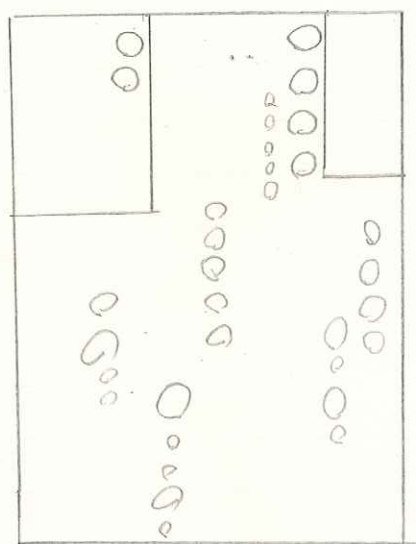
- ① 紙面の重心がどこにあるか考えること。

重心をきめるものは見出しと写真で、写真

真を使う時、あまり右や左によせすぎると
見づらいものになります。

② 見出しの配置は一方にかたよらないこと

見出しの場合も、一方にかたよると、読みに
くくなります。見出しは、右がわから左がわへ
対角線上にならべるとよい。



よい
入れ
い

③ ケイの入れかた

中印ケイは、広告の上に短評や小説を
おく時のほかは、ケイ線は左から右まで線
はひかないようにします。ケイ線は見出しや

写真で切るようにしなければならない。

④ ケイの使い方

ケイはかこいもののまわりをかこむためです。

⑤ ケイの種類 (朝日新聞読りつ)

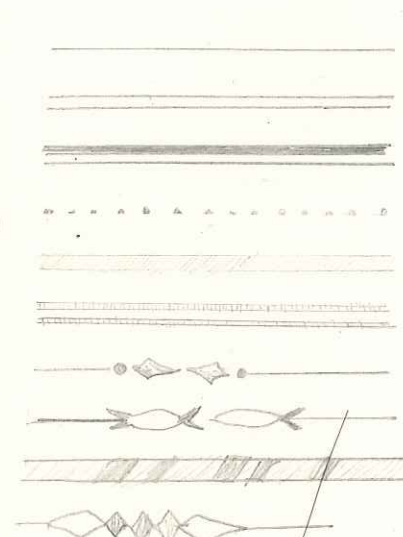
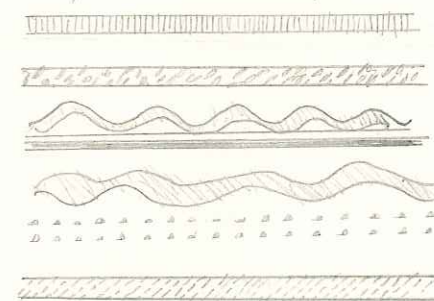


表 ケイ
双 柱 ケイ
子 持 ケイ
リーダー ケイ



⑥ ヤクモノのれい

() パーレン

(()) = 重パーレン

ㄥ ぎこう

ㄥ フレース

「」 かぎ

『 』 = 重かぎ

ㄥ ギコメ

< > 山パーレン

○ 丸

● 黒丸

□ 四角

▲ 黒三角

☆ 白星

✱ アステリスク

! 雨たれ

? 耳

ー ハイフン

| ダツシュ

⇩ 白ぬき太矢

● 白ぬき数字

Ⓐ 丸中欧文

§ セクション

シャープナンバー

⑦ コジック活字の使い方

コジック活字はふつうの字よりドギリイ感

じなので読者に強い印象をあたえます。

記事の中見出しに使ったり、強調したい人の名

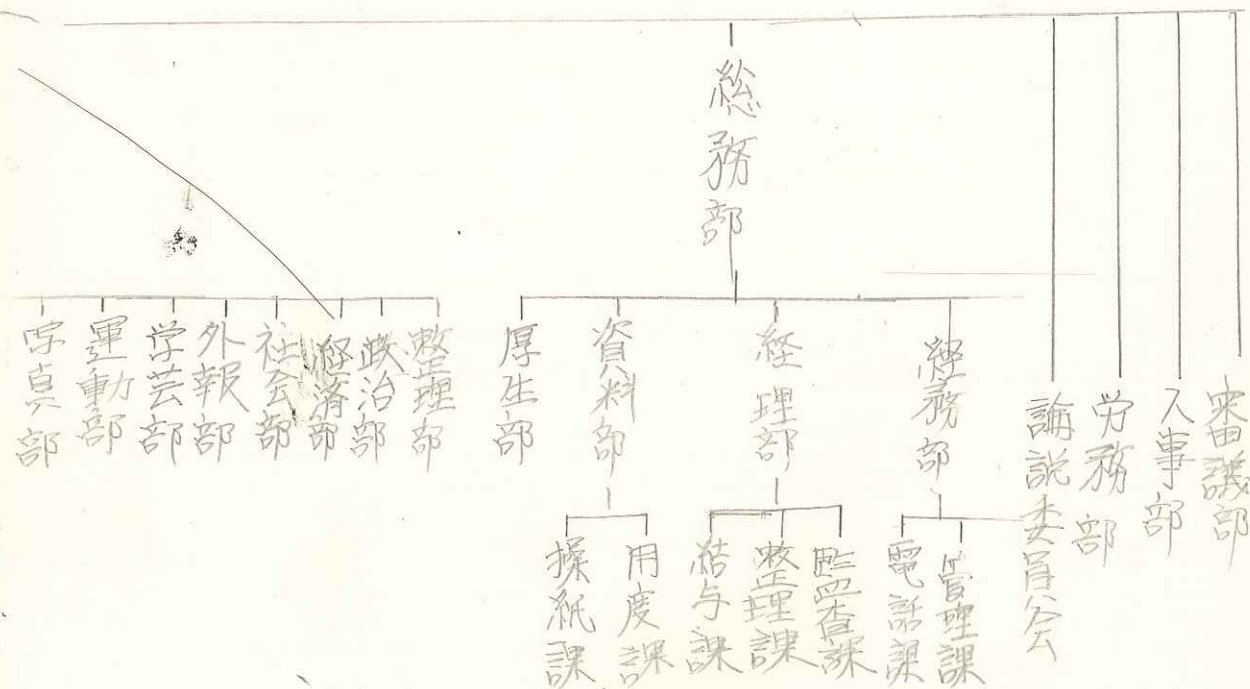
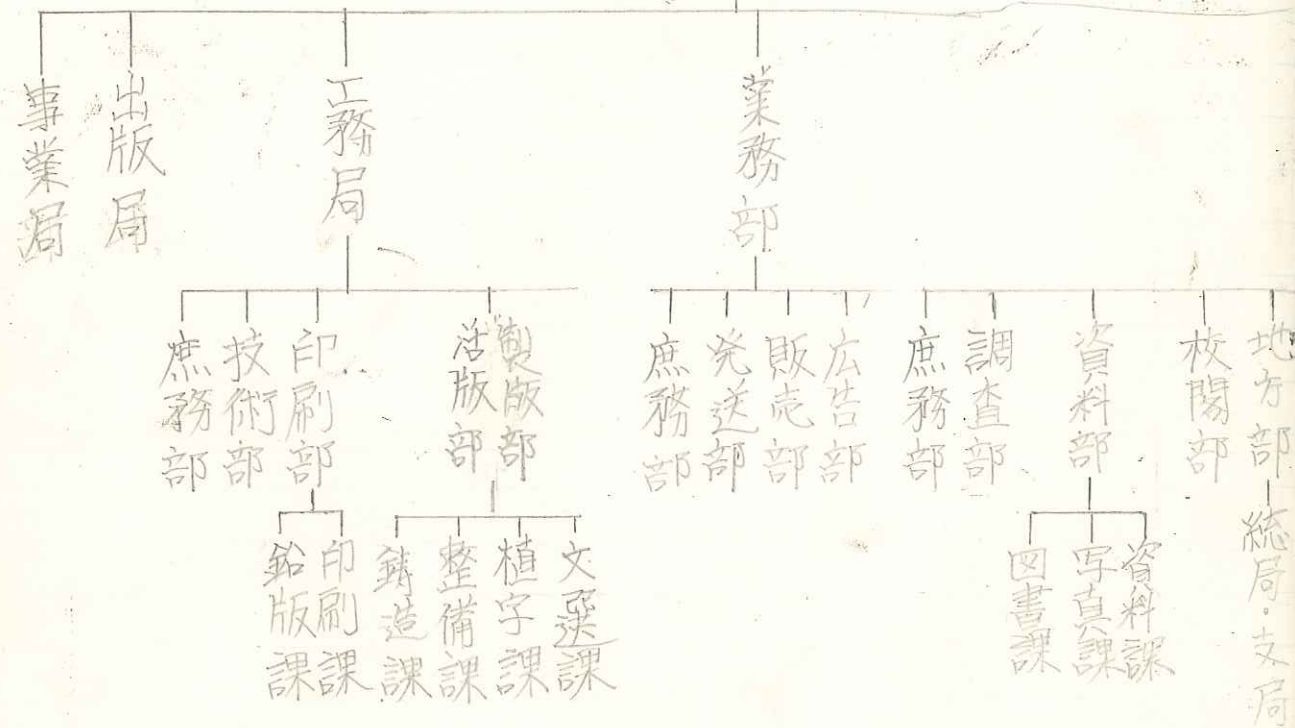
前などに使います。

⑧ 同じ性質の記事は、同じところにまとめる

(5) 新聞のできるまで

新聞社のしくみ

役員



編集局整理部

世界×国内からはいってくるニュースをどこにのせるかきめる

整理している時に、新しいニュースがはいてきても、きめられた時間まで

おめさなければならぬ。また見出しをつける。

政治部

・各省関係の極く地味な記事に至るまでおよそ政治の動きに関

係ある記事を取材報道する。

・記事は前線(電話、オートバイなど)から政治部(デスク)が記事に目を通す

み、でき当に手直るから整理部へ

・内かく政とう、各省に記者クラブがきつけられている。

外報部

外国の報道する

外国報道の仕方

1 自分の社が海外の主要な場所にはけんしている。特は員およひ

各地にいる通信員の電報

2 外国の通信社、新聞社との直接契約によって提供される電報

3 航空便による記事

通信社

東京

R P (ラジオプレス)

AN2

ACH

AP、UPI

ロイター

AFP

(アジア信信)

(ソビエト通信)

(アメリカ)

(イギリス)

(フランス)

特は員

特は員には3種類ある。

1 常駐特は員

人数の点では一番多い。大新聞や通信社が、この特は員を主としてお

いており、おいている所は都市の数にして10を下らない。その主として

ワシントン・ニューヨーク・ロンドン・パリ・ボン・ベルリン・モスクワ・カヤ・ニュ

ーデリー・香港

特は員はどのように活動しているか

外国にいても、国によって外国人記者にたいして、十分な記者活動の余地を与えられていることもある。だから国からどんなに記者が特はされても、その国の記者ほど情報は容易にとらえない。

具体的な特は活動

1 日本人の記者であるから日本に関係あることは新聞に出す出さず関係なく、語って重大である場合は、情報を手に入れて記事の内容をいさるだけ客観的に確めてから東京へ送る。

2 国際的問題がおこった時は、外国通信社とは別に、特は員が日本に打電して外国通信社にたよっていると、外国人的すぎ。日本人の目からみても、必ずしも客観的であるとはいえないからである。

3 また別の国の国内問題とくに関係した問題がおきた場合、必要ならば送信する。

常駐特は員は、以上のような仕事をする。口説は、オル・テ・ウ・ント・カ・レー・ヤード
ある。

2. 移動特は員

報道するはんいか始めから大体決まっているので、常駐特は員よりはらくである。

3. 通信員(特置員)

海外のいくつかの場所に通信員がおかれる。ここの入は、その土地に明るく、いかも報道関係の仕事に十分経馬をもっている人になる。

社会部

社会部は、読者の親しみぶかい記事である。この記事は、はんいかなく、政治問題、経済関係の景気、物価の記事、文化、教育、学芸、芸能、労働関係の事件、法問題など私たちの生活に関する出来事を全部とって、いほど社会部のコースとっていい。このため新聞社では、社会部で一番記者を多くしている。社会部だから取材するはんいも広く、国会議事堂からうり町までおよそコースの集まる所には記者をばけん、おつは、おひんしてさしている。とくに社会部に関係ある、いかし長の記事は年入りである。

経済部

人間の社会活動は、はんりろの形をたてて経済につながれるから、社会面

も政治面も多くあつてゐる。しかし、経済はトハムにはあつてゐる。かりにこれのであまりよまぬ。そのため記者は、トハムのストにもあつて、せんもん家にもピンとくるような取材をしなければならぬ。このため、経済記者のすけが、いこうである。社会記者や政治記者のように、毎日、いというとはないが、日本の経済の動きを早くとらえ、情勢の急変は世界に、たい告するためには、なによりも、不だんの勉強が必要である。この毎日の、味な努力が、いさというときにおそろいほじにはつたりする。こつらにも、ほかの部とちがつたところがある。

学芸部(文芸部、文化部)

仕事の内容は、科学・芸術・演芸など文化・教養に関係する問題から、家庭・しゅ味・ご楽など、身近な生活に関することまで、幅広い。学芸部の仕事を分割して、科学・芸術のことは学芸部、演芸部は、演芸・ごらく、婦人・家庭・しゅ味などを婦人部、自然科学に関する問題を科学部など、それぞれ、よく立した社もある。学芸部の仕事の内容によって、文芸記者、美術記者、音楽記者、映画記者、芸能記者、放送記者、科学記

者などというよひがある。

新聞小説を出す

運動部

スポーツ界は、昔の人の目をうたがひせらるほど、発達した。戦前のスポーツ界は、トハム社会のワケ外にあつた。名選手であつた。その人の名を記事に書いて、教科書のようなもので、トハムの人も無関心であつた。でも、戦後になって、プロ野球が非常に発達するにおよんで、スポーツ面は、180度転回したといつてよい。戦後もしばらく、インキングスコアとバスターをのせただけであつた。プロ野球のもつ、高度の技術が、日本人の野球に、関心とマツチし、記事も、興味的にすることが要求された。記事に、客観性が増え、加わってきた。そして、いまでは、スポーツの紙面的にもワケのヤに入られなくなり、オリンピックを始め、スポーツと政治との接触面が、多くなり、運動部は、編集局の近く、位置するようにあつた。

地方部(通信部)

地方部とは、南から島から北は北海道のはてまで、はりめぐらされた。

せん用電話 無線電信電話の通信網によって、全国の二ノースを中

央本社に集めます。

辺地でおこっている事件で全読者に知らせなければならぬ、重要なニ

又、それぞれの部に出され、そこまでいかなるニースは、県の県はんは

のせです。

冢部

げること大組という。

紙型

大組した版の上に、ぬらした特別の厚い紙をのせて強くおさえると、活字の文章とおりの紙の型ができる。

鉛版

紙面に、とろとろとけた、なまりと、すずと、アンチモニーの合金を流こめると、鉛版ができる。かまぼこ版になる。

輪転機

鉛版を輪転機という印刷機械に取りつけて、ボタンをおすと、輪転機がまわりまき取紙に印刷される。高速輪転機では、14の新聞が12万部発行される。

業務部

締切りから配達まで

- 1 原稿締切り(取材部から整理部への原稿下し(最終時間))

午前 2時40分

2 下版(大組入り)

午前 3時

3 紙型取り

午前 3時10分

4 印刷開紙

午前 3時半

5 本社発送

午前 4時

6 販売店到着

午前 5時

7 (販売店の遠近により多少の差がある)

7 直ちに読者宅へ配達

販売

現在は多様な新聞社では、全国せんでくの販売点を持っている。

広告

広告は朝夕刊平均して、紙面のほぼ40%を占め、その収入も新聞社収入の40%ととらわれる。

論説委員会

社説を決定して、各社の筆名を書く。

(6) 新聞記事の分類、種類、わりあて分類ニエース

政治

敗政・内閣・選挙・国会・政党・外交などの記事

経済

金ゆう・通貨・物の生産・物価・貿易などの物の動き

海外

国際連合・各国の動き・外国とのつきあい・世界の動き

社会

さいばん・事件・スポーツ・災害・など広範囲内容の記事

文化

科学・宗教・芸術・教育・出版に関する記事

意見・広告・こらく

社説

社会の動きについて新聞社いく自の考えかた、見かた

まとめたのまた内容

解説

政治・経済・など重大な事件など特に目だった時にその説明

をする記事

談者の声

投書らん、意見をのべるページ

広告

映画、会社、銀行、商店、職業案内など知らせたりせんてんたりする。

ご楽

れんさい小説、まんが、笑話、クイズなど、読者を楽はせる記事

種類

種類	内容	例
1. 新聞紙	だれでもが読めるためのもの	朝日新聞 毎日新聞 など
2. 特殊紙	・小学生とか婦人だけに読者するもの ・経済やスポーツだけにあつたもの ・政党や組合などの機関紙 ・同じ商売にいたる人々のための業界紙	毎日小学生新聞 日本婦人新聞 日本経済新聞 日刊スポーツ新聞 アサハタ 船員新聞 小型児童新聞
3. 全国紙	東京、大阪などを中心に全国的に発行されるもの	朝日新聞・毎日新聞・読売新聞
4. 地方紙	それぞれ地方でその地方の事情に重点をおくもの	北国新聞・北海道新聞・日本新聞

日刊 ————— 毎日発行する

週刊 ————— 1週間に1回発行する

旬刊 ————— 月に3回か10日に1回発行する

このほか、イギリスでは、部数は数ないが教養のある人々に読まれて、えいきよう力の強い高級紙と興味本位で読みあす大衆紙と、はっきりわかれてゐる。

紙面のわりあて

毎日新聞

1面	政治記事 国外ニュース 除諷
2面	国外ニュース 海外こぼれ話 読者席
3面	社説 トピックス きこうらん 投書らん 時のことば
4面	経済記事
5面	証券のページ
6面	広告
7面	母と子のページ 小説
8面	特集ページ
9面	スポーツのページ
10面	広告
11面	ラジオ・テレビの番組
12面	第二社会面

13面

社会面

14面

都民のページ 天気予報

読売新聞

1面

社説、政治記事 天気予報

2面

政治記事 国外ニュース、時の人 政界メモ

3面

国外ニュース、投書5人

4面

経済と生活のページ

5面

ラジオとテレビ番組 小説

6面

スポーツのページ

7面

婦人のページ

8面

広告

9面

都民のページ

10面

第二社会面

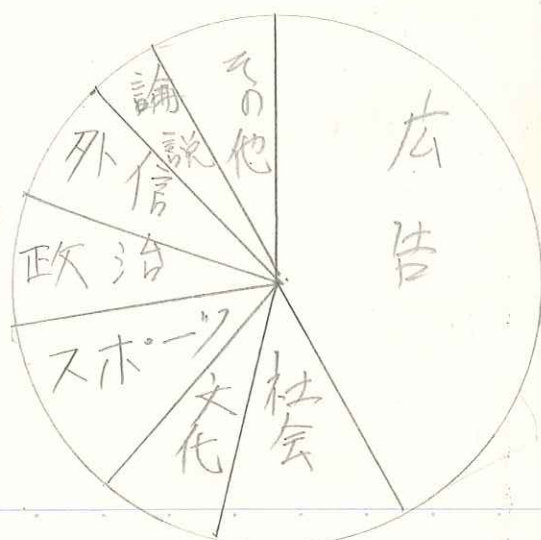
11面

社会面

12面

広告

新聞記事のわりあい



(7) 発行部数

世界のおもな発行部数 (1960年)

クリスチャン=サイエンス=モニター (アメリカ)	179,837
ニユーヨークタイムズ (アメリカ)	882,837
デイリー・エクスプレス (イギリス)	495,0713
ザ・タイムズ (イギリス)	254,664
フィガロ (フランス)	455,000
フランクフルター=アルゼ=マイネ (西ドイツ)	199,000
プラウダ (ソ連)	5500,000
人民日報 (中国)	800,000
タイムズ=オブ=インディア (インド)	1212,3000
朝日新聞 (日本)	3750,613
毎日新聞 (日本)	3565,601

発行部数のうつりかわり

1945年 1418万部 (1部あたり5.71人)

1950年	2685万部	(1部あたり 3.1人)
55年	3376万部	(= 2.65人)
60年	3704万部	(= 2.57人)
65年	4414万部	(= 2.25人)
70年	4756万部	(= 2.13人)

発行部数は年々ふえ、世界的にみれば約6000万部
発行する。アメリカ合衆国やソ連について世界第三位である。

(8) 新聞の読み方

- ① ただひとつの新聞だけでなく、できればいくつかの新聞を見くらべて読む。
- ② 見出しだけで、でき事の内容をはんだんしないようにする。
- ③ トップ・ニュースだけでなく、小さく報じられるニュースもみのかさないでよむ。
- ④ 新聞によって知識をひろめる。

まとめ調で読みでわかったこと

- (1) 新聞は、今まで「不便だ」と思っていたところから大々改良されて、いまは新聞になりました。
- (2) 今まで文章を書いていて強くいいたりことがあると、カッとするために[✓]人により言葉を使ったりしていましたが、そのことが人によりわるいとかわかりました。
また、原因、結果、状況などをはっきりかかないといけな^いということもわかりました。
- (3) 見出しはひと目で何が書いてあるかわかるようにしなければならぬ。また、見出しの位置、大きさによって、見苦しくなったり美しくなったりする。
- (4) これも見出しと同じで読みにくくなる。

私は今まで、上のようなことを適当にして、それでよいと思っていました。でもそれでは新聞にならず、しんちょうにやり、みんながよみやすく、よんでくれるような新聞にしなければなら

けない、と感じました。

- (5) 新聞社がいくつかにわかれて仕事をしている。とうことは、大抵いっていたけど、その仕事が、どれほどむずかしいかよくわかりました。時間との戦い、取材のための勉強、また、いくつかにわかれてる部で、またいくつかにわかれて仕事をしている部など、してきていて、しかも、しんちょうにやらなければならぬ、と思いました。

- (6) それとなく見ていた新聞にも、そんなにたくさんの分類があるとはおどろきました。そして、新聞社の各部のみなさんがどれだけ熱心にやっているのかがよくわかりました。

- (7) 分類も、人々の生活に一番関係ある政治経済が、1、2面に出ていて、読みやすくしており、社会面も、2ページ使っている。社会のほんのりあることがよくわかりました。

また、広告の料金がしゅう収の40%も占めているだけあって、

広告は2も、使われています。

(7) 新聞の種類がこんなにあるとは知りませんでした。でもいろいろな種類があって、人々のために役に立っているのだなあと、初めてわかりました。

(8) 年々新聞をよむ人がふえ、それだけ人々が新聞の重大さがわかったのだと思います。

新聞のはたらき

- (1) スクにニュースを知らせます。
- (2) いろいろな人々の意見などで、人の考えや自分の考えがはっきりわかるようになります。
- (3) 世の中の経済の重さなどもわかって、毎日の生活にも関係しています。
- (4) 新聞は、今まで知らなかった知識をとり入れることができます。

(5) 新聞は自分達の勉強にも役に立ちます。

(6) 自分は身近なことしか知らないが、外国や知らない土地のことでも新聞で知ることが出来ます。

(7) 広告から生活を苦ぶうしたり、広告から楽しんだり、知識をひろめたりします。

(8) 新聞から政治の動きを知ることが出来ます。

新聞は上に書いたように、私たちの生活に関係していて、重大な役目を果たしています。そして私たちにしても、新聞はなくてはならないものです。新聞をつくる時はたとえ学級新聞でも正確で、そしてこれからのみんなの生活に役に立つような内容をかかなければならないと学びました。

感想

10月ごろになって始めて、あわててしたので、あまりくわしく調べられなかつた。今度は新聞社の各部の仕事をきつとくわしく調べてみたいと思う。でも、これまでの研究は、ずいぶん役に立っていると思います。

使った本 (図書館T 別B)

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 学校新聞のすて | 375 | T |
| 2 ^{少年少女} 学芸 百科大事典 政治と社会 | 030 | T |
| 3 学校新聞 ハンドブック | 070 | B |
| 4 新聞 ハンドブック | 070 | B |
| 5 社会 自由自在 (小学高学年) | | B |

おせわになった人

父 図書館から本を借りていただきまして。